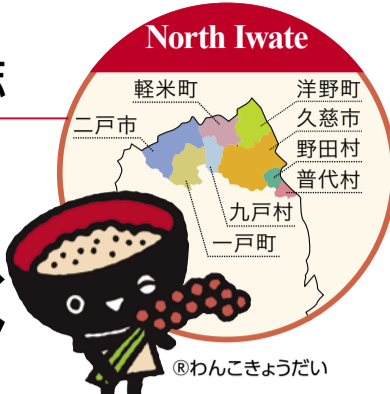


2017 北いわての魅力を伝える広報誌

北いわて最前線



県北広域振興局



未来につながる
まちづくり。

P.2 特集1

「復興」は、私たちが けん引します



歩けば、
友だちができるよ。

P.3 特集2

「こくっち」と一緒に トレイル散歩



すっきい こくっち エンゾー



この優しい
手触りが
魅力です。

P.4 特集3

二戸の漆は日本一！ 担い手の育成が 進んでいます



P.6 県北広域トピックス2017

ゆたかさ・つながり・ひと 県民みんなが紡ぐ 希望郷いわて



P.8 イベントレポート

三陸ぐるっと食堂 in KUJI

イベント 三陸ぐるっと食堂 in KUJI

ご当地グルメを楽しみました！



× B-1 with 夏まつり

食を通じた地域PRを行う交流イベント「三陸ぐるっと食堂 in KUJI」が7月22日(土)、同市侍浜の久慈地下水族科学館もぐらんびあ前の広場で開催されました。当日は、子どもから大人まで多くのお客さままでにぎわい、一堂に集まったご当地グルメを味わいました。



自慢の味をご提供

平成27年8月に釜石市で初めて開催された「三陸ぐるっと食堂」は、被災地の地域づくり団体等が、ご当地グルメを通じて県内外に地域を発信するイベントです。昨年は岩泉町で開催予定でしたが、台風の影響で中止。今年は久慈市を会場に2年ぶりに開催しました。当日はあいにくの雨にもかかわらず、多くのお客さまが会場を訪れました。自慢のグルメを提供するそれぞれの出展者は、大きな呼びかけで会場を盛り上げました。

ご当地グルメで地域を元気に「三陸の担い手」が久慈に集結



笑顔があふれる会場(久慈まめぶ部屋のみなさん)



二戸市 ぶっとべ串
「ぶた」と「り」(牛)の肉を混ぜたつくね

当日は、県内地域団体10団体、B-1グループ10団体、青森・福島・福岡の県外団体も参加。久慈まめぶ部屋は、まめぶ汁を提供し、「お客さんの入りは上々、伝統食を色んな人に食べてもらえ、嬉しかった」と、地元自慢の味を披露しました。青の国ふだいは、冷やし昆布らーめんを提供。「普代村の味を目の前で味わってもらえるチャンス」と、意気込んでいました。二戸市から訪れた家族は、「天候が悪くても来る予定でした。地元以外のご当地グルメを気軽に味わえるし、イベントの雰囲気も楽しい」と、普段、なかなか食べることができないご当地グルメを満喫していました。

地元のPRになる魅力的なメニューに舌鼓



普代村 冷やし昆布らーめん



ご当地グルメにご満悦

福岡県から出展した田川ホルモン音楽歩の家楼さんからは、「地元の宣伝だけでなく、人の温かさを感じることを楽しみにしていました。福岡も九州北部豪雨で大きな被害を受けましたが、被災地同士の交流で復興の応援が出来たら嬉しいです！」と熱いコメントをいただきました。ステージイベントも開催し、地元の子どもたちによる踊りや歌、PRで会場は盛り上がりを見せました。客足は途絶えることなく、来場者も出展者も満足の日となりました。

人と人の交流がイベントを盛り上げる秘訣



雨の中のパフォーマンスで会場を盛り上げました

アンケートプレゼント | アンケートにお答えいただいた方々の中から、抽選で合計10名様にプレゼント！

「北いわて最前線」を最後までお読みいただき、ありがとうございます。今後より一層、誌面を充実させるため、読者の方々の「声」をお聞かせください。

- 今回の記事に興味を持ったものは何ですか？(番号で回答、複数回答可)
 - 特集1 「復興」は、私たちがけん引します
 - 特集2 「こくっち」と一緒にトレイル散歩
 - 特集3 二戸の漆は日本一！担い手の育成が進んでいます
 - 県北広域トピックス2017
 - イベントレポート
- 本紙への御意見・御要望や、今後掲載して欲しい内容がありましたら、御自由にお書きください。
- 県北広域振興局に対する御意見・御要望がありましたら、御自由にお書きください。

※ 回答は、右の二次元バーコードを読み込んで応募フォームから応募ください。なお、はがき・FAXでも応募いただけますので、住所・氏名・年齢・性別・電話番号をお書きの上、お送りください。



スマートフォン用



携帯用

浄法寺塗の かぶかんしつ 「お箸 下部乾漆 夫婦」 (23cm1組) 坂田漆器店(二戸市)



「二戸の漆」を使用した浄法寺塗りのお箸です。使うほど手に馴染み、愛着が増す逸品になります。箸の先が滑らないようになり、おそばやお刺身がつかみやすいつくりになっています。

【送り先】は が き 〒028-8042 久慈市八日町1-1
県北広域振興局「北いわて最前線アンケート」係
F A X 0194-53-1720 電子メール BK0001@pref.iwate.jp

【締 切】平成29年11月10日(金)消印有効

岩手県 県北広域振興局全世帯配布広報誌 (平成29年10月発行)

編集・発行 県北広域振興局経営企画部
〒028-8042 岩手県久慈市八日町1-1 TEL:0194-53-4981代 FAX:0194-53-1720 E-mail: BK0001@pref.iwate.jp



特集1

「復興」は、私たちがけん引します

人と人とのつながりが地域を元気にする

東日本大震災津波、そして昨年の台風第10号で被害を受けた東北地域。それでも地域が一体となり、確実に復興へと歩んでいます。「人と人とのつながり」が復興の大きな活力です。地域の人々が積極的に活動し続けると同時に、復興事業も着実に進展します。新たなまちづくりが始まっている東北地域の状況と、地元のために頑張る皆さんを紹介します。



東日本大震災津波からの復興

新たなまちづくりの姿

東日本大震災津波から6年が経過した今、復興状況の理解や、津波に対する知識と防災力の向上を目的に、東北広域振興局では「復興の現場見学会」や「津波防災出前授業」などを行っています。東北広域振興局管内では、被害が大きかった野田村の「土地画整理事業」と「都市公園事業」が6月に竣工したことで、ハード面の復興は節目を迎えましたが、被災者の心の復興は途上です。防災に対する意識や積み上げてきた活動を、地



(※1) 道路や住宅など新たに整備された野田村新町地区



(※2) 新町町内会会長 中野大六さん

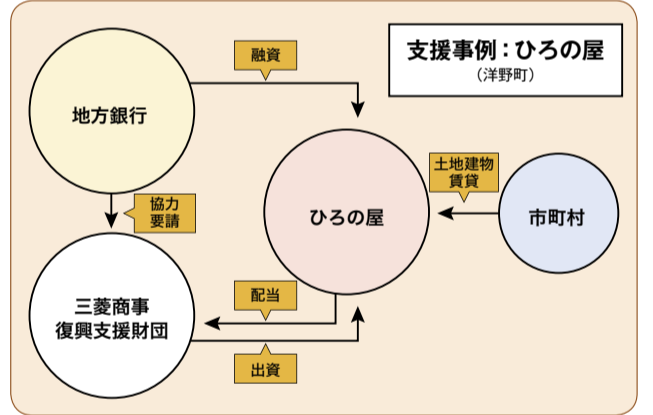
域の文化として継承していく段階にも入っています。

野田村で最も大きな高台団地「新町地区」(※1)では、昨年4月から本格的に入居が始まり、現在乃世帯が暮らしています。「普段から声を掛け合えるコミュニティ」となって、他地区への見本となるように」と話す、町内会会長の中野大六さん(※2)。新

町地区コミュニティセンターを拠点に、新しい地域の歴史を作っていくため、さまざまな住民が関われる活動と、世代間の橋渡しを目指しています。

産業復興・雇用創出支援

復興資金を被災地で循環させ、地域経済の自立を目指す「産業復興・雇用創出支援」が進展しています。その仕組みは、三菱商事復興支援財団が、地元金融機関等と協働し、事業の再建を目指す事業者に出資や融資を行うもの。これを活用した洋野町の「ひろの屋」は、継続的な支援体制のもと、水産資源の高ブランド化と雇用創出を実現しています。(左インタビュー参照)



台風第10号からの復旧

昨年の台風第10号豪雨による被害を受け、長内川源流の山根地域では毎年恒例の「山根町民文化祭」が中止となりました。山根六郷の里協議会会長の細畑賢さん(※3)によると、今年10月下旬開催に向けて、出展者への呼びかけなどを進めているとのこと。地域活性化のため補助金を受けた山根六郷は、地域外の方も楽しめるイベント企画や、地元をPRできる特産品開発を進めているところ。また、台風からの復旧とともに、過疎地域を盛り上げていくため、8月27日(日)には、旧山根小中学校を会場に「第3回山根サマーフェス



(※3) 山根六郷の里協議会会長 細畑賢さん

ティール」(※4)を開催し、約400人が来場しました。特産品の付加価値を高めるための事業も進めています。伝統食のイワナを干物や押し寿司にしたり、山菜・きのこを木箱に詰め合わせて販売したり、商品開発から市場調査までを一連の流れで行い、資源を商品化していくことを目指しています。また、将来の運行を目指してデマンドバスの実験運転を行っています。



(※4) イベントには大勢の人が集まった

特集2

みちのく潮風トレイル

「こくつち」と一緒にトレイル散歩

見つけよう、北いわての素敵な場所

東北復興のシンボルとして、みちのく潮風トレイルが整備されています。トレイルとは、森林や里山、海岸などを通る「歩くための道」という意味です。トレイルの魅力を伝えるため、岩手のご当地キャラわんこきょうだいのこくつちが普代村にやってきました。



時間と距離はおおよそ目安です。



仲よし昆布ブラザーズ。普代村のご当地キャラです。

黒崎展望台

まずは黒崎展望台！青くて広い海を見渡すことができ感動のこくつち！白い灯台が気に入ったみたい。



宮沢賢治「発動機船」碑

あいで！ぼくたちがおもてなし！

「あいで」…普代の方言で「行くぞ」という意味

ネダリ浜

次はネダリ浜！ゴツゴツとした岩の崖下、波打ち際の自然歩道はドキドキの連続。岩をくり抜いたトンネルの先で記念撮影！



1.2km 24分

3.6km 70分

普代浜園地

休憩しながら仲良く歩く、こくつちたち。まだまだ普代村の素敵な場所はたくさんありそうだね♪



歩道のない国道や県道、天候や潮位によって波が高くなる海岸沿いは歩行時に注意が必要です。環境省で推奨しているトレイルマップに注意箇所が表示されているので、事前確認を行ってください。



お天気ばっちり！ボリもににに！



津波石って言うんだよ！

大ききこ能へんてい！

いもいもさん！

今日はお楽しみ！

仲よし昆布ブラザーズ。普代村のご当地キャラです。

他にも洋野町、久慈市、野田村を歩くコースがあるよ！地域ならではの景色を楽しもう！

インタビュー



道と人がつながる瞬間をつくる

久慈広域観光協議会 観光コーディネーター 貫牛利一さん

みちのく潮風トレイルは、その時々風景をゆっくり歩いて自然を感じながら、他の参加者や地元の人とあいさつを交わすところから話が広がり仲良

くなるなど、旅先での思いがけない交流が魅力です。そのため、気軽にあいさつができる環境づくりと、地元の人々のトレイル認知度を高めるための活動が必要です。

まずは自分たちがトレイルの楽しさを知るため、今後、地元の人向けのトレイルイベントを予定しています。そして、県外からの来訪者に対し、身内のような気持ちで迎えること、また、地元の美味しいものや見てもらいたいものを、心を込めて自慢できること、それが大切だと考えています。

インタビュー

美味しいお菓子里で地元を笑顔に

洋菓子ミリオナル 繁名和子さん



台風第10号により店は1m10cm浸水し、機材は全滅でした。それでもたくさんの応援や「いつ再開しますか」というお客さまの声が励みになり、従業員も辞めずに頑張ってくれました。補助金を受け、昨年12月に店を再開することができました。「あまちゃん」放送以降、名物の「まめぶっせ」をはじめ、以前と同じように商品を揃えています。みなさんに立ち寄っていただける久慈駅の近くで、お菓子やケーキを作り続けることが地域のためにもなるかなと思っています。

特集3

二戸の漆は日本一！ 担い手の育成が進んでいます

品質の良さから、文化財修復に不可欠

現在、国内で流通している漆の97%が外国産で、残り3%が国産漆。その約7割を二戸市浄法寺産が占めています。岩手県と二戸市では「浄法寺漆認証制度」を創設し、ブランド確立に努めています。



二戸市福田地区に広がるウルシの林で生漆を掻く職人さん

ルには、固まることにより、表面の堅牢度や酸などへの耐久性を高める作用があります。二戸市浄法寺産を含む国産漆は、そのウルシオール含有率が外国産に比べて高い点特徴。そのため塗装材料や接着剤としての役割が大きく、また、文化庁も

国宝や重要文化財の修復に国産漆を使うことを推奨しており、二戸の漆は文化財保護に欠かせないものとなっています。県や市ではこれらの課題を解決するために、住民や関連機関と協力しながら、さまざまな活動を展開しています。

使うほどにツヤが増す漆器

木の器に、生漆（木から採取したもの）を精製したものを何度も塗り重ねて完成させる漆器。漆の産地である二戸市浄法寺地区は漆器の産地でもあり、ここで作られる漆器は「浄法寺漆器」「浄法寺塗」として知られています。



「浄法寺漆」が入る樽。ロゴマークは「浄法寺漆認証制度」による品質の証です

使いつけられる点も魅力ではないでしょうか」とも話します。浄法寺漆は、外国産の漆と比べると硬いので、塗ったあとの強度も大きくなります。一方で、掻き手によってツヤや色味に差があるのですが、「逆に、用途に応じて使い分けすることができると、それを利点としてとらえる馬場さん。二戸市にある漆器工房で、地元二戸の漆を使って作ることができることに喜びを感じています。



滴生舎の塗師、馬場真樹子さん



塗師のみごとな手さばき

二戸市は、国産漆の約7割を生産する「日本一の漆の産地」です。世界文化遺産に登録された京都の鹿苑寺金閣、中尊寺金色堂、日光二社二寺（二荒山神社、東照宮、輪王寺）などの修復に使われ、その品質の良さに注目が集まっています。魅力たっぷりな二戸の漆。地元では漆掻き職人の育成など、将来の担い手育成に取り組んでいます。漆産業の現状をお知らせします。

後継者育成や新規就業者支援の取組

日本一の生産量を誇る二戸の漆ですが、ここ数年の生産量は600〜800kg/年。それに対し、文化財の保存修復に必要な量は約2.2t/年といわれています。漆掻き職人が一年間に採取する漆の量は50kg前後なので、この2.2tをすべて二戸の職人がまかなうと考えると、およそ40人の職人が必要となる計算になります。現在の職人数は26人。しかも7割以上が60歳代以上と、高齢化が進んでいます。



※1) 漆掻きの魅力と将来性を語る泉山義夫さん

より多くの後継者の育成を目指し、昨年度から国の「地域おこし協力隊制度」も活用。隊員を「うるしびと」として育成しています。（左インタビュー参照）「隊員・研修生が7人いるので、来年は30人体制になる。文化財修復の需要のおかげで漆産業は好調なので、職人をもっと増やしていきたい」と話すのは、漆掻き職人で構成される「浄法寺漆生産組合」の泉山義夫組合長（※1）。さらに二戸市では、漆の原木を購入する新規就業者に対する補助や、漆掻き就業者への支援を行い、生産量アップに取り組んでいます。

小学校で「漆産業」をテーマに総合的な学習の時間



※2) 漆掻き職人さんを「先生」に漆の勉強 子どもたちがまとめた壁新聞

浄法寺小学校では毎年5年生が総合的な学習の時間に、「浄法寺の漆産業」をテーマに活動しています（※2）。これは「子どもたちに地域のことを知って愛着を持ってもらう」ことを目的に、3年前から実施。子どもたちは「絵付け体験」のほか、作業や資料館の見学、職人へのインタビューなどを通して漆のさまざまな側面を調査し、リーフレットにまとめています。さ



※3) 左から松尾葉子副校長、平義昭校長、川村節子教諭

らに、6年生の修学旅行ではそのリーフレットをもとにPR活動を行い、浄法寺漆の魅力発信しています。「子どもたちは、漆器が完成するまでの過程など『知らなかったことを学ぶ』ことがおもしろいようで、自発的に調査・活動しています」と、副校長の松尾葉子先生と研究主任の川村節子先生（※3）。また保護者からは、「子どもがふるさとについて積極的に学んでくれることがうれい」という声があがっています。「いつか子どもたちの中から職人が誕生してほしい。そんな期待が高まります。

インタビュー

誇りに感じる この仕事を続け、極めたい

二戸市地域おこし協力隊
長島まどかさん



漆掻きの様子

もともと日本の伝統文化・工芸に興味があり、広島県熊野町で化粧筆づくりの修業をしていました。そんな時、たまたま見っていたテレビの「国宝修理」の特集番組で、国産漆の生産量が足りないことを知り、「これだ!」と思って協力隊に応募。昨年6月から、組合長や滴生舎のスタッフに教わりながら、夏は漆掻き、冬は塗師の仕事をしています。暑い汁が入っているのに「熱くない」漆器には感動しましたし、日光東照宮の修復現場を見た時には、仕事に誇りを感じました。任期はあと1年半ですが、満了後も二戸に住み、漆掻きの仕事を極めたいです。

二戸で楽しく「漆体験」 漆が“いい味”出しています

「漆の空間」で楽しむ



稲庭交流センター 天台の湯

古刹天台寺の宿坊であり瀬戸内寂聴師の定宿として有名。近年、漆塗りの部屋も作られ話題になっています。

問い合わせ 二戸市浄法寺町野黒沢133-1
TEL 0195-38-3222

営業時間 10:00~22:00 (毎月第4水曜定休日)

漆器を見る・買う



漆絵皿展示室

漆絵皿は農作業の合間の「小昼」(おやつ)や、料理の取り皿として使われたもので約200枚が展示されています。

問い合わせ 二戸市浄法寺町下前田37-4(浄法寺総合支所2階)
TEL0195-38-2211

開設時間 10:00~17:00 (年末年始が休み)



滴生舎

浄法寺漆器を次世代へつなぐことを理念に併設の工房で漆器を生産。浄法寺漆の魅力を発信しています。

問い合わせ 二戸市浄法寺町御山中前田23-6
TEL 0195-38-2511

営業時間 8:30~17:00 (年末年始、火曜日が休み)

なぜ?なに? 浄法寺の漆

3%の国産漆の7割を占める「二戸の漆」

Q 「二戸の漆」のどんなところが日本一なの?

A 漆の生産は茨城県や新潟県でも行われていますが、二戸市の生産量は国産漆の7割を占めています。しかも、生漆の採取から流通、漆器製作まで行っている、国内唯一の地域です。二戸の漆は、日本の漆産業を支えているといってもよいでしょう。

漆器は丈夫で修理できるから、毎日使える

Q 漆器は高価だけど、私たちにどんな利点があるの?

A 漆器は、「丈夫」「熱伝導率が低いので、熱い汁を入れても持った手が熱くならない」「口当たりがやさしい」などの利点があり、子どもから大人まで毎日安心して使えます。また、修理することができるので、長く使うことができます。最初に買う時は高価に感じるかもしれませんが、「何十年も毎日使えれば高くない」という考え方もあります。

ツヤがあり丈夫な国産漆

Q 国産漆と外国産の違いを教えてください。

A 国産漆は主成分ウルシオールの含有率が高い一方で、外国産の漆に比べてゴム成分が少ないといわれます。外国産の漆には、安価で供給量が多く、大量に使いやすいという特徴があります。一方、国産漆は、外国産に比べてツヤや透明度、接着性に優れています。また、漆が固まってできた塗布面が堅牢なので、長期間にわたって保存する文化財修理には不可欠なのです。

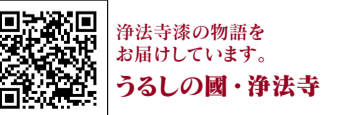
木の皮を傷つけて染み出た樹液が「漆」

Q 漆はどうやって採取しているの?

A 漆はウルシの木の樹液で、皮と木質の間に蓄積されているものです。専用の道具で皮を傷つけると、樹液が木肌を守られるために染み出るので、それを採取します。1本の木から4ヵ月程度(6~9月)かけて採取しますが、時期によって品質に違いがあり、7~8月頃に、ウルシオールの含有量が多くなるので高品質の樹液が採れます。これを「盛漆(さかりうるし)」と呼んでいます。



ウルシの木に傷をつけて採取します



浄法寺漆の物語を
お届けしています。
うるしの國・浄法寺

林産物の適地適作を推進し、生産者の収益アップを応援しています。

全国的に高評価。北三陸の乾しいたけを育む

北三陸の冷涼な気候を生かして栽培される久慈地方の乾しいたけは、肉厚で食感、味ともに優れていることから、全国的に高い評価を得ています。久慈市侍浜町の乾しいたけ生産者・久慈清巳さんは、今年6月、日本椎茸農業協同組合連合会主催の乾椎茸箱物品評会スライスの部に出品。今年2月に亡くなった父・石太郎さんと二人三脚で精励し、10年連続で最高位の林野庁長官賞を受賞しました。これは乾しいたけ栽培一筋に歩んできた成果です。

しかし取引価格の面で、生産者の苦労が報われているとはいえません。生産者の収益アップにつながるよう、量販店やイベント会場での販促活動、商談会への参加支援に取り組み、生産者の皆さんを応援しています。



愛情こめた原木を背にする久慈清巳さん



スライスされた「乾しいたけ」。首都圏で高評価を受けています

お問い合わせ先
■ 東北広域振興局林務部林業振興課
TEL0194-53-4984

新規就農希望者の支援に力を入れています。

就農相談会や農家見学会などを開催

市町村・団体と連携し、就農希望者を対象とした情報発信や研修、農作業体験の機会提供など体験機会の提供などに取り組んでいます。

8月10日に洋野町で開催した久慈地方農家見学会・就農相談会では、町内のハウレンソウ、リンドウなどの農家4軒を見学、栽培方法等の説明を受けました。

また、二戸地域でも4市町村それぞれに出向いて就農相談会が行われています。これから始める方に限らず、最近農業を始めたけれど身近に相談できる人がいないという方も、この就農相談会を活用し、気軽に相談してください！



農家の説明に聞き入る見学会参加者のみなさん(洋野町)



この日は多くの方が相談に訪れました(一戸町)

お問い合わせ先
■ 東北広域振興局農政部農政調整課 TEL0194-53-4983
■ 東北広域振興局二戸農業改良普及センター TEL0195-23-9208

「食の匠」と連携し、地域の食文化を次世代へ伝えます。

子どもたちや親世代を対象に料理教室を開催

地域で受け継がれてきた食文化や郷土料理等を発信するとともに次代へ伝承する「食の匠」と連携し、若い世代への伝承・普及活動を展開しています。二戸市の「食の匠」である米田カヨさんは、市内の小学校や公民館などで「手打ちそば」などの郷土料理を指導。現代ではそれらを伝承している家庭が少ないので、子どもだけでなく親子を対象に教えることで広く普及を図っています。また、同じく二戸市の安藤直美さんは、「食育」をテーマに活動。得意な雑穀料理に加え、「けんちん汁」などの郷土料理や、旬の野菜を使った料理を子どもや大人まで幅広く教えています。「子どもがおいしいように食べているのを見て、親自身が変わるんですよ」と活動の意義を語ります。

岩手県立久慈東高等学校では、食物系3年の調理師免許取得を目指す生徒を対象に、平成23年から毎年3回、「食の匠」による高校生への郷土料理伝承会を開催。担当の田村智己教諭は「高校生たちは、教わった郷土料理を文化祭で作って販売するなど発信役も担っています」と話します。また「伝承会後も作ってくれるのはうれしい」と喜ぶのは、今年5月に講師を務めた野田村の新山幸子さんと小谷地ハヨさん。是非、若い世代には郷土料理が地域の宝であることを感じてもらい、そして後世に継承してもらいたいです。



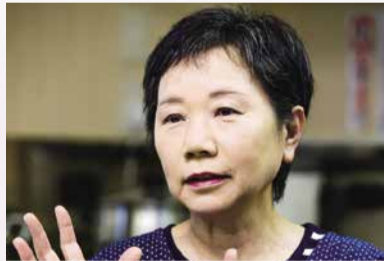
今日は「うさぎだんご」を作ります(久慈東高校)



小谷地ハヨさん(左)と新山幸子さん(ともに野田村の食の匠)



米田カヨさん(二戸市の食の匠)



安藤直美さん(二戸市の食の匠)



田村智己さん(久慈東高校教諭)

お問い合わせ先
■ 東北広域振興局久慈農業改良普及センター TEL0194-53-4989
■ 東北広域振興局二戸農業改良普及センター TEL0195-23-9208

定置網漁業の「カイゼン」に取り組んでいます。

より安全で安心な漁業 労働環境の整備に向けて

夏のサバ、秋のサケに代表されるように県北沿岸部では定置網漁が盛んですが、乗組員の減少と高齢化が進み、漁労機械やロープにからまるなど労働災害の発生が心配されます。

このため、漁業の労働環境改善の専門家を招き、定置網漁業の現場を調査し、船上作業を撮影した映像を見ながら、乗組員が安全上の問題点を話し合うカイゼン講習会を実施しています。今年度は、船上の作業に加え、陸上での作業も指導してもらう予定です。

このように、定置網漁の作業環境の改善により、漁業者が安全に操業しながら久慈地域の新鮮な水産物を安定的に供給できる環境づくりに取り組んでいます。

お問い合わせ先
■ 東北広域振興局水産部水産振興課 TEL0194-53-4985

「ふくしアート展」でふれあいの輪が広がっています。

障がい者の皆さんの作品を募り、毎月展示

毎月、二戸地域の障がい者の皆さんが趣味や余暇活動で制作した絵画、工芸品などを募った、「ふくしアート展」を二戸地区合同庁舎県民ホールで開いています。年内のアート展は、10月16～25日、11月13～22日、12月13～22日の日程で開催する予定です。

多くの方の御来場をお待ちしています！

また、久慈地域では、花巻市のるんぴにい美術館から講師を招き「障がい者アート研修会」を行うなど、障がい者芸術振興に取り組んでいるところです。障がい者の皆さんが制作を通して生きがいを持てるような環境づくりを進めていきます。

お問い合わせ先
■ 東北広域振興局二戸保健福祉環境センター福祉課 TEL0195-23-9202
■ 東北広域振興局保健福祉環境部福祉課 TEL0194-53-4982

国道281号の「案内トンネル」整備、国道395号では改良工事を行いました。

急カーブ、急勾配が解消。ともに安全快適な道へ

一般国道281号(復興支援道路)では、「案内工区」(久慈市山形町案内地区)の整備が進んでいます。延長2,100m(うちトンネル1,150m)の整備を行うことにより、急カーブが解消され、物流輸送の効率化や医療施設への安定搬送、緊急輸送の強化が進み、また、昨年度発生した台風第10号のような災害に対しても安全・安心が向上します。現在、道路の改良工事やトンネル設備工事をしており、今年の11月19日に開通予定です。

一般国道395号の「赤石峠」(軽米町小軽米地区)は洋野町と軽米町の町境に位置します。改良区間880mは峠部にあり、S字をなす急カーブと急勾配の組み合わせで見通しも悪く、走行性が著しく劣っていました。

このことから、安全で快適な通行を確保するため、本工事により急カーブと急勾配を解消し、また、道路幅を広げることが出来ました。

お問い合わせ先
■ 東北広域振興局土木部道路整備課 TEL0194-53-4990
■ 東北広域振興局土木部二戸土木センター TEL0195-23-9209



威力のよい定置網漁の一場面。ここにカイゼン点を見出しす



講義にじっと耳を傾ける漁師のみなさん



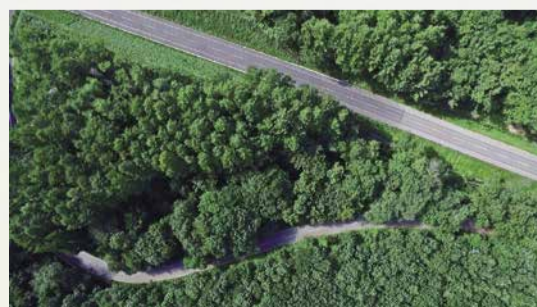
優しさあふれる作品の数々を展示します(二戸市、二戸地区合同庁舎1階県民ホール)



熱心に作品制作に取り組む参加者のみなさん(久慈市)



工事が進む国道281号案内トンネル



直線的になった国道395号赤石峠付近(下に見えるのは旧道)

東北広域トピックス2017
ゆたかさ・つながり・ひと
県民みんなが紡ぐ希望郷いわて

豊かな自然環境や恵まれた山の幸・海の幸、長い歴史と暮らしに培われた知恵と文化。県北地方では、地域の特性や資源を生かしながら、農林水産業や観光の振興、若者の定住促進、子育て環境の充実など魅力あるふるさとを創生するため、「いわて県民計画」第3期アクションプランに基づく施策が進められています。

